

# 第12回: カレツキ・モデルの拡張

担当者: 佐々木 啓明\*

2012年1月11日

---

\*京都大学経済学研究科. E-mail: [sasaki@econ.kyoto-u.ac.jp](mailto:sasaki@econ.kyoto-u.ac.jp)

## —拡張その1: 賃金からの貯蓄—

利潤からだけでなく、賃金からも貯蓄することを考える。

$$g_s = [s_w(1 - m) + s_c m]u \quad (1)$$

$s_w$ : 賃金からの貯蓄率,  $s_c$ : 利潤からの貯蓄率.

投資関数はこれまでどおり.

$$g_i = \alpha + \beta u. \quad (2)$$

マークアップ・プライシングを仮定すると、利潤シェアは一定となる。

$$p = (1 + \theta) \frac{w}{T} \implies m = \frac{\theta}{1 + \theta}. \quad (3)$$

## 比較静学分析

1.  $s_c$ が上昇すると?
2.  $s_w$ が上昇すると?
3.  $m$ が上昇すると?
4.  $\alpha$ あるいは $\beta$ が上昇すると?

利潤のみから貯蓄される場合との違いは?

## —拡張その2: 賃金主導型成長と利潤主導型成長—

これまでは, 利潤シェア  $m$  が増大すると,  $g^*$  が低下した. このことを「賃金主導型成長」と呼ぶ.

しかし, 1970年代以降の先進国では, 利潤シェアの低下を伴った低成長が観察された. つまり,  $m$  が増大すると  $g^*$  は上昇する. このことを「利潤主導型成長」と呼ぶ.

カレツキ・モデルで利潤主導型成長を説明できるか?

投資関数を次のように変更する.

$$g_i = \alpha + \beta u + \gamma m. \quad (4)$$

$r = um$  の  $u$  と  $m$  が別々に影響すると考える.

貯蓄関数はこれまでどおり  $g_s = s_c r = s_c m u$ . 財市場の均衡条件  $g_s = g_i$  より,

$$u^* = \frac{\alpha + \gamma m}{s_c m - \beta}, \quad (5)$$

$$g^* = \frac{s_c(\alpha + \gamma m)m}{s_c m - \beta}. \quad (6)$$

$s_c m - \beta > 0$ を仮定する(ケインジアン安定条件).

利潤シェアの増大が成長率に与える影響.

$$\frac{dg^*}{dm} = \frac{s_c(s_c \gamma m^2 - 2\beta \gamma m - \alpha \beta)}{(s_c m - \beta)^2} \quad (7)$$

分子の括弧部分を  $f(m) = s_c \gamma m^2 - 2\beta \gamma m - \alpha \beta$  とおく.

$f(m) > 0$ であれば、 $dg^*/dm > 0$ となって、利潤主導型成長。

$f(m) < 0$ であれば、 $dg^*/dm < 0$ となって、賃金主導型成長。

利潤主導型成長は得られるか？